

中学校英語情報誌 Sunshine Letter Vol. 2 巻頭言

即興的に話す力の基礎を築こう

佐賀県吉野ヶ里町立東脊振中学校教諭 吉田 喜美子

中学校の卒業時、生徒たちは何ができるようになっていけばよいのでしょうか。即興的に考えや意見をまとめて述べたり、友だちと語り合ったりする姿を思い浮かべる先生方が多いことと思います。では、そのような生徒たちをどのようにして育てたらよいのでしょうか。さまざまな方法があると思いますが、ここでは即興的に話す力の基礎となる「対話を継続する力」、「自分の意見や考えを構築する力」の育成について述べます。

対話を継続する力を養うために、小学校から続けている Small Talk を中学校でも帯学習に取り入れることを提案します。各課の Try を使って 1 分間トークをしてみませんか。「いきなりフリートークはちょっと……」という心配があるなら、開隆堂出版ホームページ掲載の「活動お助けシート Try で Let's Enjoy Q&A」をぜひご活用ください。生徒が聞き手側として RCQ (Reaction / Repeat-Comment-Question: 田村岳充先生〈宇都宮大学〉より) にくり返し取り組むことによって、対話の基本的な型とともに、対話の内容が発展し深まることを生徒たちは体験しながら学んでいきます。帯学習 Try の効果により、生徒たちが Scenes を自由にアレンジして楽しむ姿や、Our Project のプレゼンテーション後に行う Q&A や Comment タイムで質問や意見を躊躇することなく述べる姿を見ることができるようになります。

自分の意見や考えを構築し、述べることは大変なことのように思えます。しかしぜひ、Retell にも継続して取り組んでみませんか。SUNSHINE 各 PROGRAM の Think では、学校生活や日常生活の話題から、平和、環境、教育、人権、科学技術など、さまざまな話題が取り上げられています。本文から抜き出したキーワードをもとに自分のことばで本文内容について語る活動に、即興的に取り組むのです。

まず、生徒とともにキーワードを書き出します。次に、キーワードを使ってペアまたは班で Retell 活動に取り組みます。初期の頃は教師が発話モデルを示してもよいでしょう。Teacher's Manual を参考に、題材について深掘りしておくことで、まさに「いい感じ」の英文を述べる生徒が出てきます。そして最も大切な活動は、Retell 活動の終盤で、I think ~などの表現を使って自分の考えをつけ加えさせることです。ほんの 1 文ではありますが、生徒は時間をかけて思考しますし、3年間くり返すことによって、自分の考えを少しずつ蓄積していくこととなります。

「対話を継続する」と「自分の意見や考えを構築する」ことの総仕上げとして、さまざまな話題についての即興的な 3 分間フリートークをくり返す授業を 1 時間だけでも設けてみてください。生徒たちの準備は不要です。きっと、時間をかけて身につけてきた力を、身振り手振りを交えながら発揮してくれることでしょう。

